

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

小さな負担、大きな幸せ

宇佐市立長洲中学校

三年 松本 菜緒

先月行われていた参議院議員選挙。私はとあるニュースの中で、消費税の廃止を掲げている政党があることを知りました。

税は私たちが安心して暮らすためのとても大切なものだと思います。病気になったときに治療をしてもらえる病院や、いつも安全を守ってくれている警察、そして私たちが受けている教育にも、全て税金が使われています。

その後、税について調べていると、「消費税は税全体の約3割を占めている」と知りました。3割といえば、クラスに30人いたら9人分。かなりの存在感です。それをなくすと聞いて、私は「そんなに大きいものをなくして本当に大丈夫なのかな」と思いました。

でも、そのニュースでは、消費税の廃止は「物価高対策」になると報じられていました。確かに最近はや々なものが高くなっていて、母も「前はもっと安かったのに。」とため息をつくことがあります。だから、「消費税をなくせば、家計の助けになる」という意見にもある意味納得できる気がしました。

けれど、私はそこで立ち止まりました。本当に「安くなる」だけでいいのか？と。

ある日、私は母とスーパーに買い物へ行きました。買ったのは牛乳や卵、食パンなど、どれもよく使うものです。レジで表示された金額を見た母が、「やっぱり高くなってるね。」とつぶやいていました。でも、その帰り道に私は母に「もし税金がなくなると、病院とかが困るようになったらどう思う？」と聞いたら、「そっちのほうがよくばど困るかもね。」と言われました。

私はその言葉を聞いて、はっとしました。

学校では、冷暖房の効いた教室で私たちは授業を受けています。トイレも新しく、教科書なども無料でもらえます。でも、それらの設備やサービスの多くが、実は税金によって支えられているのだと授業で学びました。もし消費税がなくなれば、それらができなくなってしまう。そう考えると、私は消費税はとても大切な税の1つなのだと思います。

私たちは、値段という「目に見える負担」には敏感だけれど、安心や安全という「目に見えない支え」には、なかなか気付きにくいのだと思います。でも、コンビニやスーパーで払った数円の消費税も、どこかで誰かのために使われているのだと思うと、とてもうれしいなと思いました。

だから私は、ただ「安くなるからうれしい」のではなく、「なぜ税が必要なのか」も考えてお金を払うことができればいいなと思います。これから大人になって、本格的に納税をするようになったとき、私はその意味をきちんと理解していきたいです。

税金は、社会全体で安心を分け合うためのしくみ。そう考えると、消費税を払う自分が少しだけ誇らしいです。